

よか ネット

YOKANET

NO. 32 1998. 3

(株)九州地域計画研究所

もくじ

NETWORK

- 個族化社会の現実をどう見るか
 ～モクモクからツーカーへ知恵を考える～ 2
 よかネットセミナーから研究会発足
 ～地方財政研究会 6
 地域計画のための一知半解事典⑩
 ニュータウンの人口構成 7

見・聞・食

- 第二の人生は見知らぬ土地で
 ～矢部村シルバーハウジング 10
 食品工業団地一体をハクトリーパーク化
 ～「熊本フードパル」を視察 11

近況

- 都心の循環バスはお年寄りの足に
 ～北九州市都心循環バスの試験運行 14

所員近況

- グローバルな企業活動と国際空港／男のくせにツラでメシを
 を食うなんて…という言葉からの連想 15

本・BOOKS

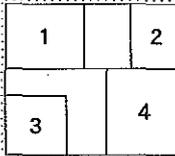
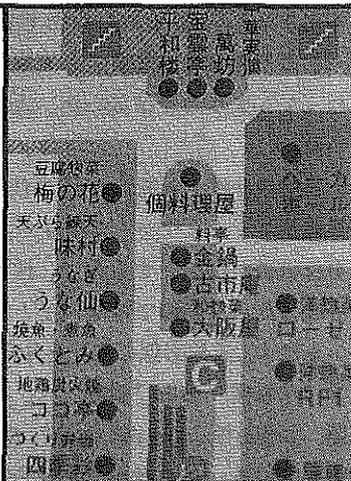
- 「免疫学個人授業」 16



「個族」のための 「個食」ではりあう 天神デパート戦争？

デパートの「個食売場」が盛況だということ、売場の人に聞いてきました。

- ・Dデパート：食料品街の総菜屋の中で一番の売れ行き
- ・Iデパート本館：周りの総菜屋の半端物を1人前のバックに詰めている
- ・Iデパート別館：30代の働くミセス、OLの昼食がターゲットで、意識はしていない
- ・Mデパート：売場が見当たらなかった



瓶・缶詰	中華材料	中国茶	催事	寿司
ワインセラー	瓶・缶詰	中華惣菜	和惣菜	弁当
米穀	味噌蔵	洋惣菜	惣菜・弁当	とんかつ
蔵	のり	だし工房	神戸コロッケ	和惣菜
全国銘産	佃煮	個食		しゅうまい
薬局・健康食品	韓国逸品			うなぎ
				一銭焼

1. 80～220円台～約60種類
100～280円台～約65種類
その他、和・洋・エスニック
などが数十種類あり、盛況
2. 中心より上に「個料理屋」という字が見える
3. 下の方に、その名も「個食」
4. 約50点の「個食」と、弁当などが並んでいる



個族化社会の現実をどう見るか

— モクモクからツーカーへ知恵を考える —

1. “個族” という言葉

“個族” という言葉を、はじめてレポートに書いたのは、1990年のことである。当時、住宅団地開発にたずさわっていたのだが、なんとなくバブル的な勢いがあり、ゆとりがあって多様な暮らしのできる住宅ということがいわれていた。住宅団地というものは、基本的な考え方を決めて開発にとりかかっても、早くて5年後に一部居住が始まるというぐらいが、最速の事業進捗である。とすればこの時の計画が“すまい”として具体化されるのは、おおむね21世紀というわけであった。ところが私は、家族とか家庭というものが大きく変わってしまうのではないか、ということにとらわれていた。

当時のレポートを見ると、「住宅単機能型の同一世代集住型ニュータウン」ではなく、「単身世帯、特に高齢単身世帯が増加」する中で、住宅地づくりの考えを変えねばならないのではないかと述べている。そのポイントは「①家族形態の変化と知恵のうけつきシステム、②“核家族”から“個族”へ、③単機能型住宅地の問題、④豊かな“つきあい社会”のためのまちづくり」となっている。なんだかこ小賢しいことを書いてはいるが、私の関心はそのうちの一点“知恵のうけつきシステム”に集中していた。

表1 数字で見る個族化

	a 人口(千人)				b 単身世帯人員(千人)				c 人口に占める割合(人/百人)				d bの1975年を100とした場合			
	全国	福岡県	宮崎県	沖縄県	全国	福岡県	宮崎県	沖縄県	全国	福岡県	宮崎県	沖縄県	全国	福岡県	宮崎県	沖縄県
大正9 1920	55,963	2,188	651	572	642	17	8	10	1.1	0.8	1.2	1.7	15	11	20	30
昭和5 1930	64,450	2,527	760	578	694	18	8	11	1.1	0.7	1.0	2.0	16	12	20	34
25 1950	84,115	3,530	1,091	915	889	32	11	—	1.1	0.9	1.0	—	21	21	28	—
35 1960	94,302	4,007	1,135	883	1,023	32	12	—	1.1	0.8	1.1	—	24	21	32	—
40 1965	99,209	3,965	1,081	934	1,863	62	20	—	1.9	1.6	1.8	—	44	40	52	—
45 1970	104,665	4,027	1,051	945	2,888	99	28	—	2.8	2.5	2.6	—	68	63	72	—
50 1975	111,940	4,293	1,085	1,043	4,236	156	39	33	3.8	3.6	3.6	3.2	100	100	100	100
55 1980	117,060	4,553	1,152	1,107	5,388	225	52	45	4.6	5.0	4.5	4.1	127	145	134	136
60 1985	121,049	4,719	1,176	1,179	6,393	274	60	56	5.3	5.8	5.1	4.7	151	176	156	168
平成2 1990	123,611	4,811	1,169	1,222	9,390	394	80	70	7.6	8.2	6.8	5.7	222	253	207	212
7 1995	125,570	4,933	1,176	1,273	11,239	490	100	88	9.0	9.9	8.5	6.9	265	314	259	267
H7/T2	2.2	2.3	1.8	2.2	17.5	28.4	13.2	9.0								

資料：長期統計総覧、沖縄県のH25～45は該当する数値がない
 ※1：aは総人口 ※2：bは一般世帯（S60までは普通世帯）人員

日本経済新聞 1999年(平成10年)1月1日(木曜日)

「個族」の時代が始まる



あなたも命

集団よりもまず自分

「個族」の時代が始まる。従来の「核家族」や「単身世帯」から、さらに多様な暮らしの形態が生まれる。これからは、自分自身の生活スタイルを大切にし、周囲との関係性を柔軟に築いていくことが求められる。

これは、私自身の腑甲斐無さに対する絶望から来ていた。今でも変わっていないのだが、先人から受け継いだことを、どうして子供へ継いでいったらいいのかについて、全くわからなくなっていた。大阪の高槻に住んでいた友人が、「これからはな、家の中も、大阪

駅のコンコースみたいなもんやせ」とよく言っていた。彼の言い分は、「溜る」ことのない通過場所になりつつある、ということであった。「これでは“核家族”でさえもないのではないか」と思った。周辺のどこもが集住から個住になりつつあった。このことから生じる問題はふたつある。ひとつは「知恵の受け継ぎ」であり、もうひとつは孤独に対してどうするかということである。これについては後に述べることにする。

この正月の日経新聞の「“個族”の時代が始まる」という見出しを見て驚いた。ついに“個族”という言葉は一般用語になったのである。そのことが、本稿を書くきっかけである。

2. 個族化の実態を数字でみる

大正9年(1920)から平成7年(1995)までの75年間に、日本の人口は2.2倍になったのであるが、単身世帯の人は17.5倍になっている。この勢いが急に進みはじめるのは、1945～50年頃からである。

全人口に占める単身の比率は、1965年(S40)まではそれほど変わっていない。とはいっても従来の約2倍になっている(1.1%から1.9%へ)。この時代は高度成

長へさしかかる頃で、田舎から都市へ若い人たちが大移動を始めていたのであろう。ついでに第1次ベビーブーム(BB)世代が20歳を過ぎる1970年以降急増し、1980年には4.6%になる。単身者の絶対数で見ると、1965年(186.3万人)から、15年後の1980年(538.8万人)へ2.9倍になっている。

単身世帯というと、すぐに孤独な高齢者の一人暮らしとみられやすいが、実際はそうではない。若い人の方がはるかに多いのである。

表1に、全国、福岡、宮崎、沖縄県の数値を示しているが、一見してわかるように、福岡県は単身者の伸びが全国平均よりはるかに高い。これは福岡が九州の中で若者の一極集中地域に当たっているからである。つまり高齢者の集中地域でないにもかかわらず単身が多い。人口比でも約10%が単身である。

一方沖縄は単身の増加率が福岡の1/3であり、人口比も6.9%と低い。とは言え、1975年以降の推移は全国平均より高くなっている。沖縄は人口動態で見ると全国の中で最も安定しており、人口増加も続いている。高齢者の暮らし方から見ても、全国の中で最も豊かな

表2-1 単身世帯(全国、1995)

	単位:人、%		
	総数	男	女
一般世帯	123,646,128 (100.0)	60,588,526 (49.0)	63,057,602 (51.0)
単身世帯	11,239,389 (9.1)	6,223,570 (5.0)	5,015,819 (4.1)
～29歳	4,254,219 (3.4)	2,797,272 (2.3)	1,456,947 (1.2)
30～64歳	4,783,010 (3.9)	2,966,139 (2.4)	1,816,871 (1.5)
65歳～	2,202,160 (1.8)	460,159 (0.4)	1,742,001 (1.4)

資料:長期統計総覧

※:()内は一般世帯総数に占める割合

表2-2 単身世帯(福岡県、1995)

	単位:人、%		
	総数	男	女
一般世帯	4,825,591 (100.0)	2,305,830 (47.8)	2,519,761 (52.2)
単身世帯	490,053 (10.2)	248,539 (5.2)	241,514 (5.0)
～29歳	193,255 (4.0)	126,018 (2.6)	67,237 (1.4)
30～64歳	192,538 (4.0)	102,613 (2.1)	89,925 (1.9)
65歳～	104,260 (2.2)	19,908 (0.4)	84,352 (1.7)

資料:長期統計総覧

※:()内は一般世帯総数に占める割合

表2-3 単身世帯(宮崎県、1995)

	単位:人、%		
	総数	男	女
一般世帯	1,150,041 (100.0)	544,217 (47.3)	605,824 (52.7)
単身世帯	100,222 (8.7)	42,121 (3.7)	58,101 (5.1)
～29歳	29,933 (2.6)	18,159 (1.6)	11,774 (1.0)
30～64歳	38,663 (3.4)	18,814 (1.6)	19,849 (1.7)
65歳～	31,626 (2.7)	5,148 (0.4)	26,478 (2.3)

資料:長期統計総覧

※:()内は一般世帯総数に占める割合

表2-4 単身世帯(沖縄県、1995)

	単位:人、%		
	総数	男	女
一般世帯	1,247,047 (100.0)	611,391 (49.0)	635,656 (51.0)
単身世帯	88,413 (7.1)	44,155 (3.5)	44,258 (3.5)
～29歳	22,200 (1.8)	12,675 (1.0)	9,525 (0.8)
30～64歳	45,299 (3.6)	27,047 (2.2)	18,252 (1.5)
65歳～	20,914 (1.7)	4,433 (0.4)	16,481 (1.3)

資料:長期統計総覧

※:()内は一般世帯総数に占める割合

(物質的な意味ではない) 県と言ってもよいように思うが、復帰後の単身化は急速に進んでいる。

1995年の単身世帯(全国)は、全一般世帯の9.1%を占め、11,239千人となっている。そのうち29歳未満が37.9%を占めて4,254千人、30~64歳層が42.6%の4,783千人となっている。65歳以上の高齢者は20%弱の2,202千人である。この数値からみても、「単身は高齢問題」という見方はできないことがわかる。ただし、65歳以上の女性の比重は大きい。割り切つて言えば、「単身は高齢女性と若者の問題である」といえよう(表2-1)。

福岡県は、全国の傾向より高齢女性と若者の比重が高い。男女計でみると29歳未満が39.4%で最も多い。65歳以上層も21.3%を占め全国平均より高く、中堅年齢層(30~64歳)が相対的に少なくなっている。

沖縄県では単身世帯の半分以上が30~64歳層で、若い人の比率は少ない。特に29歳未満の女性の比率は、全国平均や福岡県の半分ぐらいである。沖縄では、娘が離婚して帰ってきて、親が「辛抱が悪い」などと言って叱ったりしないという話を聞いたことがあるが、全体として人間関係が濃密で、一緒に暮らしやすいであろう。

宮崎県では高齢女性の単身者の比率が高い。男性の側は全体の0.4%である。この0.4%という高齢男性の単身率の数値は、全国、福岡県、宮崎県、沖縄県ともに同じである。

3. 家族がバラバラになっていく話

「風の行方」(佐藤愛子著、毎日新聞社刊)という小説で、ある時から家族が分離していつ、一人暮らしになっていく話が書かれている。一人っ子の少年の周辺に起こった物語である。

祖母は、永年家族に尽くしてきただけだという思いをもっており、一度「自由」を味わいたいと考え、夫に離婚をせまる。夫(祖父)はその希望を受け入れて、自分は岩手県の山奥の無住寺に住みつき、一人暮らしを始める。彼は教師の出身であり、そこでもう一度本来の教師の夢を思いながら塾をやろうとするが、そこにはほとんど子供はいない。

一方祖母は解放感にひたるため、温泉旅行に女友達と出かけたり、フランス料理を習ったり、社交ダンスを習ったりするが、それほど充実感がわくわけではない。

その息子(少年の父)は、不倫の責任をとって離婚

する。妻(少年の母)は毅然として夫と別れ、自分の仕事に生き甲斐を見出していく。一人っ子の孫は、家族が分断されていく中で、学校でいじめに遭う。もとはと言えば、転校して来た田舎の子供へ、方言にからんだいじめをかばったことから、自分がいじめに遭い出すのであるが、それに対して一人ぼっちの健気な戦いを続けていく。5人家族が、突然それぞれの、それなりに納得のいく理由で別れだし、それなりの主体性のようなものを感じて努力を始める。一方では、そのような別れた生活が可能な、現代社会の便利さと物質的な豊かさ自体に、違和感を感じずにはいられない。

ほんの百年ぐらい前までは、農業が中心の社会であり、集落が暮らしを支える塊(かたまり)の単位であった。その中に家族が塊となって一人ひとりを包み込んでいた。それは大家族であり、大黒柱としての祖父や父というものがあり、全員が何本かの柱となって、力を寄せ合って生きていた。個族というようなことは起こりようがなかった。

逆に言えば、個族ということは“村八分”のことであり、死以上の厳しい刑罰であった。ということは、“自由”が許されぬ貧困な社会であり、皆が“不幸”であったとも言える。しかし今、自由とか豊かさを求めて、我々は船出してしまっている。個族化の勢いは、先にデータで示したように止められそうにない。では個族化社会での“行き方の知恵”とは何かについてふれて、稿を終わりにしたい。

4. 多様な“ひともうけ”を主体にした、豊かな“つきあい社会”へ

個族化へいたる時代背景を表3にまとめてみた。他愛無いマンガのようなものである。結論から言うと、個族社会は情報社会であり、主体的なネットワークを持たないと孤独になるとともに孤立していく。一方、ネットワークを持った人は、個として自立し、ネットワークに支えたり支えられたりしながら、危機を回避しつつ、相対的に安定した暮らしができることになる。

農耕社会までは、かなりの広がりを持った塊で生きており、生活や生産力についてもそれほど情報化していなかった。工業社会になって核家族化が進み情報化率が高くなると、人間の生産費(一人前になるまでの情報装備率を上げるコスト)が高くなり、必然的に“少子化”へ向かってしまった。今では、再生産がなりたない出生率にまで下がってしまっている。このこと

表3 情報空間と生活空間の変化、モクモクからツーカーへ

	モクモク率 (仮説)	物的空間	情的空間	生活空間 (狭義)
採集社会 (家族、部族)	90~99%	とにかくモクモクと狩猟をした。生産に占める知恵の学習率は1~9%。幼児のうちから労働力として活躍。	家族、部族間の知恵の受け継ぎによって労働力の育成がうながされてきた。	部族 大家族
農耕社会 (部族、集落)	70~90%	道具・種苗、生産技術などの比重増大、情報化の進展、知恵の伝達意義の増大。10~15歳で一人前の労働力。	集落によって知恵が受け継がれたが、水系、放牧圏域など生活圏が拡がり、知恵の受け継ぎ専門のシステムとして、寺子屋、教会、小規模な小学校がつけられた。	大家族
工業社会 (地域社会、 流域交通域)	30~70%	機械化、動力化社会。エネルギー革命によって動力としての人間の後退、モクモク率の低下、15~18歳で労働力として自立。	生産力に知恵の部分が増大。大規模、専門的学習システムが必要となった。 (高校、専門学校、大学など)	核家族
情報社会 (グローバル 地球的)	10~30%	製品に占める知恵の部分の大幅増大。工場内でも知的労働となる。農業でも高度な機械操作及び知的労働化。モクモク労働の機械による代替、企業内での知恵の受け継ぐ時間の増大。モクモク労働はレジャーとなる。	生産及び生活における知的ネットワーク化、生産力の大半を知恵が受け持つ。学習の専門化、長期化。成人に達するまでの学習コストの増大。生産以外の面での知恵の受け継ぎの必要性の増大。つまり情的空間における非生産要素の増大。	個族

は、一層個族化へ拍車をかけるものとなっている。

個族化社会では、孤独な一人暮らしになるか、個が自立する個立生活で生きるかのどちらかになる。「遠くの親戚より、近くの他人」という言葉があるが、個族化社会で孤立してしまわないためには、親戚に頼るわけにはいかないから（遠く離れている場合が多い）、たくさんの人々とネットワークを組んでいかねばならない。つまり、交際（つきあい）を大切に、平日頃から“ひともうけ”をしておく必要がある。

「豊かな社会」になったといわれているが、究極の豊かさは人間関係の豊かさにつきる。また人間関係の豊かさは結局のところ人に「もてる」ことにつきる。ところが、人にもてるための条件は「もてなし」が上手であり、「もてなし」の心をそなえていることになる。これからは血縁にたよることを少なくせざるをえないわけであるから、「もてなす」知恵をもつ人が最も安心な未来をもつことになる。「これからは血縁よりも、気のおけない友達同士で気兼ねなく助け合える場」がもっとも必要になる。

インターネットが流行っており、ホームページもたくさん増えているが、休眠のものがほとんどだということを知った。これは当然かもしれない。ホームページというものを開いておけば、よい情報がアクセスしてくるということになるなんてことは起こりえない。それは、店さえ開いておけば、客がドンドンお金を放り込

んでくれるということが、ありえないのと同じである。

好い店が栄えるのと同じように、心やさしい人、縁を大切に人、もてなしの心をもった人、知的好奇心の旺盛な人、気配りの好い人のところへ人々はアクセスする。個族になっても孤独にならずに生きていくカギは、日ごろの人儲けにつきるのではなからうか。最後にもうひとつ駄足を。

人儲けの具体的効用は、カンニングがしやすくなることである。何か問題にぶつかった時、資料や書籍に当たったり、一人で考えたりするほど効率の悪いことはない。まして、考えて出てくるということは、役に立つ知識が私のボンクラ頭にインプットされている場合に限られる。日頃から横着な私は、取りあえず「知っている人」に聞くことにしている。知っている人がいない場合は、「知っている人を紹介してくれる人」に聞くのである。

このような横着をして資料などを開き、その上で資料や書籍に当たり、インプットした上で考える。

私どもの事務所に若い人が入ってきたら、いつも「学校はカンニングしてはいけないが、社会に出たらカンニングできない人間は役に立たない」と言うことにしている。

個族化社会での行き方は、日頃からカンニング・ネットワークを築き上げているかどうかにかかっているのではなからうか。 (糸乗 貞喜)

よかネットセミナーから研究会発足

地方財政研究会

昨年よかネットセミナーをきっかけに、九州大学経済学部の伊東弘文教授を囲み、地方財政研究会を行っています。

研究会は2ヶ月に1回の割合で、財政課の方や公認会計士等が集まり議論を進めています。これまで研究会

は3回行い、第1回目は研究会の進め方について話し合い、第2回目は福岡県地方課陶山さんに地方分権について、第3回目に伊東先生に市町村別歳出決算倍率とSAM(社会会計行列)を中心に地方財政について話しをしていただきました。

その中から第3回目の伊藤先生のお話を簡単に報告したいと思います。

〈市町村別歳出決算倍率〉

・地方財政が深刻な問題になったのは、第2次石油シヨ

(単位:%)

区分 市町村名	歳出 決算 倍率	1.00 1.50 2.00 2.50 3.00					区分 市町村名	歳出 決算 倍率	1.00 1.50 2.00 2.50 3.00																																																																																									
		大牟田市 2.00	久留米市 1.67	藤方市 2.02	藤原市 2.10	藤川市 2.31			柳川市 1.66	山田市 2.29	甘木市 1.79	八女市 1.72	筑後市 1.93	大川市 1.79	行橋市 2.31	豊前市 1.74	中間市 2.01	小郡市 1.83	筑紫野市 2.10	春日市 1.63	大野城市 1.74	宗像市 1.73	太宰府市 1.68	市平均 1.90	那珂川町 1.31	宇美町 1.91	篠栗町 2.36	志免町 1.38	須恵町 1.70	新宮町 1.61	古賀町 1.41	久山町 1.97	粕屋町 2.15	福岡町 1.53	津屋崎町 1.43	玄海町 1.59	大島村 1.69	芦屋町 2.54	水巻町 1.85	岡垣町 1.62	遠賀町 1.72	小竹町 1.99	鞍手町 1.59	官田町 1.89	若宮町 1.97	桂川町 2.33	糟粕町 1.81	碓井町 1.97	嘉穂町 1.86	筑穂町 1.79	穂波町 1.57	庄内町 1.85	頼田町 1.68	県平均 1.82	把木町 1.78	朝倉町 1.51	三輪町 1.35	夜須町 1.64	小石原村 1.83	宝珠山村 1.58	前原町 1.70	二丈町 1.52	志摩町 1.45	吉井町 1.42	田主丸町 1.31	浮羽町 1.59	北野町 1.53	大刀洗町 1.52	城島町 1.55	大木町 1.54	三機町 1.47	黒木町 1.68	上郷町 1.61	立花町 1.70	広川町 1.68	矢部村 1.75	星野村 1.79	瀬高町 1.34	大和町 1.59	三橋町 1.45	山川町 1.40	高田町 1.44	香春町 2.01	深田町 1.91	金谷町 2.30	糸田町 2.01	川崎町 2.37	赤池町 2.27	方城町 2.39	大任町 2.09	赤井村 2.01	刈田町 1.61	犀川町 1.84	勝山町 1.60	豊津町 2.14	椎田町 1.87	吉富町 1.41	築城町 1.64

グラフ1
市町村別歳出決算倍率

(注) 平均値は加重平均

全国平均 1.91 (昭和63年度 特別区・政令市を除く)

ック頃だった。この頃から地方財政に関わるようになった。

- ・当時の福岡県地方課長が財政分析方法として、市町村別歳出決算倍率（グラフ1参照）を考えた。
- ・歳出決算倍率は、分母に標準財政規模（地方税+普通交付税）、分子に決算歳出額を置くというものである。つまり、分母に毎年度確実に入ってくる収入を置き、分子にどれくらいの仕事をしたかを入れる。
- ・グラフをみると、田川郡、飯塚市、直方市等は、県平均に比べ山が右側にでており、収入に対して、沢山の仕事をしていることになる。また、芦屋町も山がでていますが、競艇場があり、安心して仕事ができるというしくみになっているのだろう。
- ・このように市町村別歳出決算倍率は市町村の体質がよくてくる。
- ・しかし、この表を市町村に示して、仕事を控え借金をへらしなさいといってもあまり効果はなかった。相変わらず施設等が建設され、その維持管理費（人件費等）によって借金は増える一方であった。
- ・市町村には、確実に入ってくる収入以外に、特別交付税等の収入が入ってくるというしくみがあり、何とかかなというように思っているのだろう。
- ・地方自治には損益計算書、貸借対照表の考え方がないので、仕事のし過ぎという意識がない。
- ・市町村財政は、公共財を生産する一風変わった財を生産する企業であるという考えが非常に弱い。
- ・無計画に事業をやってはいけないという考えはできてきているが、非合理性についてはまだ議論されていない。
- ・ドイツは1975年に複式予算制度に変わっている。G7で複式予算制度を取り入れていないのは日本ぐらいではないか。
- ・複式予算制度がポイントの1つであるが、地域経済における地方財政はどうなっているかということもポイントになるだろう。これを知るために飛びついたのがSAMで、熊本大学の有吉範敏助教授と北九州のSAMを作った。

〈SAM〉

- ・SAMは社会会計行列のことである。SAMの基本的な考え方は貸借対照表の貸方を行に、借方を列に置き換えたものである。つまり、資金の調達が行、それがどういうふうにつ運用されているかが列になっ

てでている。

- ・SAMの読み方は①表側と表頭は同じ分類（期首・期末思案は例外）。したがって正方行列。②同じ番号を持つ1組の行と列が1つの勘定を構成。行が受取、列が支払いを表す。したがって必ず行和=列和。③生産勘定から順次右下へ読み進み、最後に財貨・サービス勘定に戻ると、経済循環を理解しやすい。
- ・特徴は、①SAMは経済循環全体を網羅的かつ体系的に表示する統計情報システム。②表側・表頭の項目を細分化したり統合したりすることによって分析目的に応じたSAMを作成することができる。③マクロモデル分析のための体系的データセットとしても利用できる。
- ・小さい市町村は、小さい市町村なりにSAMをつくれるのではないかと考えている。
- ・普通の市町村でSAMをつくる上で何が障害になるのか考えているところである。

伊東先生の説明の後、参加者から質問や意見が飛び交い、有意義な研究会になりました。私自身は難しく理解できない部分が多かったのですが、もしこのSAMが全市町村でつくれることができるならば、地方財政の問題点がはっきりと目にみえてくるのではないかと思います。

第4回目の地方財政研究会は4月に開く予定です。内容についてはただいま検討中ですが、ご興味のある方はご連絡下さい。（七搦 かおり）

地域づくりのための一知半解辞典⑩

ニュータウンの人口構成

あるベッドタウンの町で、住宅問題にかかわっているが、地区別に人口構成を調べているとかなり極端な年齢構成になっていた。郊外ニュータウンの年齢構成に偏りがあることはある程度言われてきたが、ここで実例を整理したい。

●昭和40年代開発団地で高齢化率急上昇

図1、2は鹿児島県のS団地の1986年と1996年の年齢構成である。S団地は147戸の戸建て住宅地で、昭和42～49年（1967～74）に建売分譲されており、市街地の一角を占めている。分譲から約15年程経過した86年時点の人口ピラミッドから推測すると、分譲時には20代後半から30代の購入者が多かったようであり、40

～50代とその子供世代の10代が極端に多い。谷間の20代はあまりいない。さらに10年後の1996年時点では、世帯主世代はほぼそのまま持ち上がり、50～60代が膨らんでいる。子供世代の20代もまだ膨らんではいないが、人口は約半分に減っている。新しく生まれてきた9歳以下も、母親世代の減少により10年前の約半分になっている。高齢化率は10年間で5.1%から18.1%へ急上昇している。

次に、図3は福岡県の最初の郊外型ニュータウンといわれるJ団地の一部で、1995年の年齢構成である。戸建て住宅地が中心で全体で1,650戸あり、昭和38～43年(1963～68年)に分譲されている。40代から60代までと20歳前後が多く、30歳前後と9歳以下が少ないなど、S団地とよく似ている。

図4は同じく福岡県でJ団地と同じ市内にあるH団地の一部である。H団地は昭和41～46年に分譲されているが、公団等の大規模な賃貸住宅もある。ここにはH団

地のうち賃貸住宅が多い地区を挙げた。45～49歳と15～19歳にピークがあり、S団地の1986年時点に似ているが、25歳前後のくびれがさほどでもない。偏りが比較的小さい要因としては、賃貸住宅では居住者が適度に入れ替わっていることが考えられる。そこで、次に年齢階層別の人口増減をみることにする。

●親の呼び寄せで高齢化に拍車がかかる？

5歳階級ごとの10年間の人口増減をみたものが図5～7である。これは10年前の同一集団(例えば1995年の10～14歳と1985年の0～4歳)とを比較している。9歳以下は出生による増加、10歳以上は主に転入転出による増減、高齢者には死亡による減少もかなり含まれてくる。3団地とも20代後半の減少が大きく、40歳前後で増加または減少幅が小さくなる傾向は共通している。

S団地では宅地は全て埋まっており、新規流入者がほとんど見込まれない。そのため世帯分離等による転出

図1 S団地年齢構成(1986年)

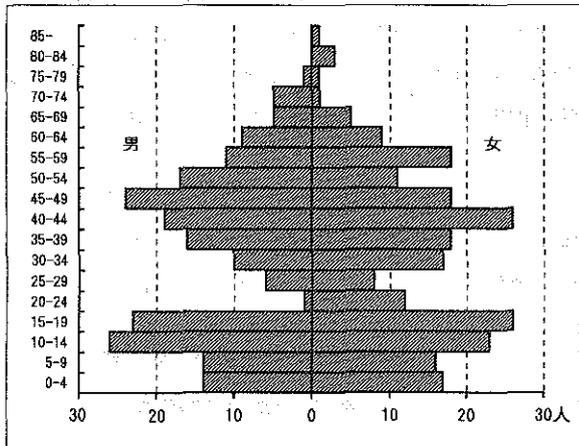


図2 S団地年齢構成(1996年)

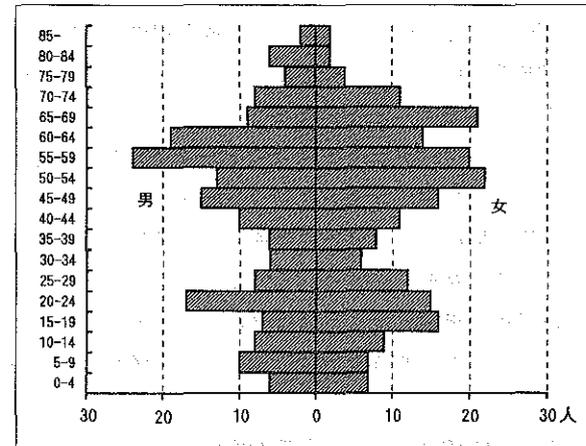


図3 J団地年齢構成(1995年)

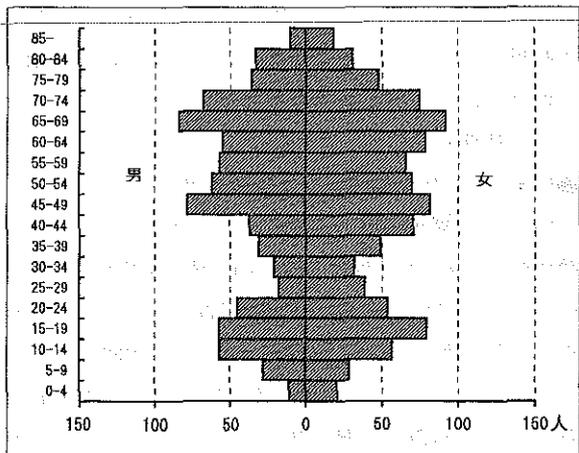
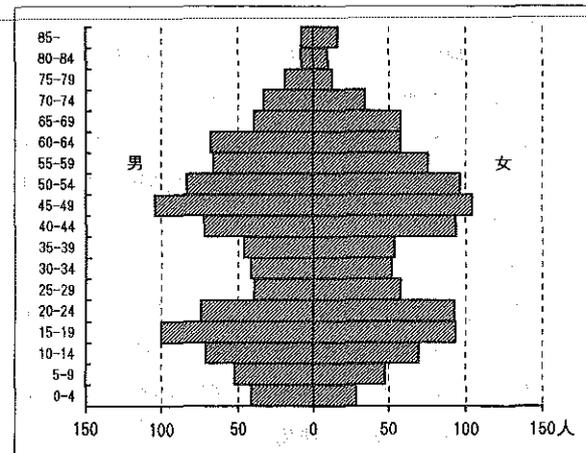


図4 H団地年齢構成(1995年)



が多くを占め、若年層から中堅層までが減少となっている。ところが60代を中心に高齢者が増加しており、死亡による減少もあることを考えると、ある程度の転入者がいるようである。はっきりした原因は分からないが、ベッドタウンに家を購入した世代が親を呼び寄せている可能性はある。このことは、年齢構成が偏ったニュータウン地区で、急速に進む高齢化にさらに拍車をかけることになりかねない。

●年齢階層の偏りがさらに激しくなる分譲住宅地

一方、J団地とH団地を比較すると、両方とも母数となる人口はほぼ同じ（1995年にJ団地約1,800人、H団地約2,000人）なのだが、10歳以上の年齢階層ごとの増減の幅がJ団地は大きく、H団地は小さい。これはやはり分譲のみか賃貸住宅も立地しているかの差が出ていると考えられる。

J団地は宅地の余裕が幾分あり、新規流入もあるようで40代と子供世代の10代が増加している。しかし20

代の減少が大きく、世帯分離等が出ていく世代を埋め合わせられていない。H団地も20代が減少してはいるが、賃貸住宅であるため若い世帯の流入もあると考えられ、減少幅はJ団地ほど大きくない。9歳以下の出生による増加数は、H団地ではJ団地の2倍程度確保している。高齢者の減少が少ないが、これは早くできたJ団地の方が高齢者が多く、死亡者も増えているためと思われる。

つまり、分譲住宅ばかりのニュータウンでは、人口の年齢構成の偏りはさらに助長される傾向にあり、賃貸住宅があれば、偏りはある程度緩和されることが示されていると思う。

●借家供給と利便性の確保ができるか

もうひとつ心配なのは、団地が郊外にある場合。前出のS団地と同じ町内にあるA団地は昭和53年から57年に民間によって分譲された1,400戸の住宅地で、市街地からはやや離れており、団地内も坂道が多く、高齢

図5 S団地年齢別人口増減（1986～96年）

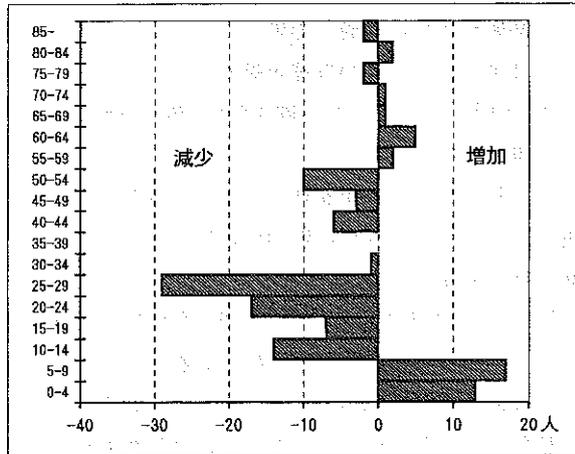


図6 J団地年齢別人口増減（1985～95年）

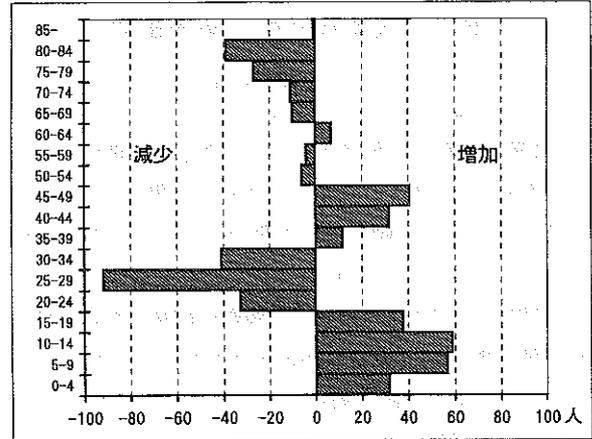


図7 H団地年齢別人口増減（1985～95年）

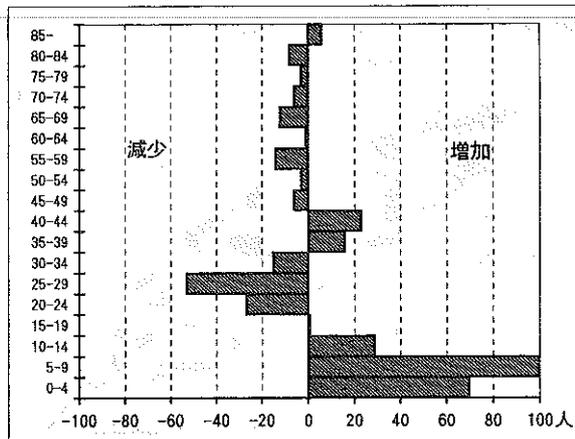
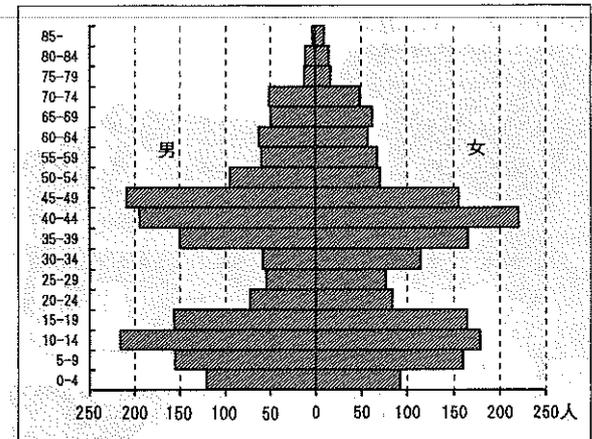


図8 A団地年齢構成（1995年）



資料は全ての各市町住民基本台帳による

者等には大変である。宅地はあと2割くらい残っているようだが、売れ行きはすでに停滞気味になっている。A団地の年齢構成は図8であるが、30代後半から40代と、19歳以下のふたつの山に完全に2分されている。将来的には、世帯主の世代は住み続けるが、子供世代はいずれ出ていって半分程度になり、偏りの激しい、きれいな(?)キノコ型の年齢構成になっていくと思われる。町では10年後くらいにA団地の隣接地に公営住宅を供給して、少しでも地域のバランスがとれるようにするということであり、その効果に期待したい。

利便性については、S団地は市街地につながっており、ある程度確保されている。車に乗れなくても買い物や病院に行ける。それに比べA団地は市街地から孤立している割には大きなスーパーもなく、車がなければ不便だ。高齢者が極端に多くなるこういった郊外ニュータウンで、交通、買い物、医療・福祉などの利便性を確保することがこれからの課題になるだろう。

(伊藤 聡)

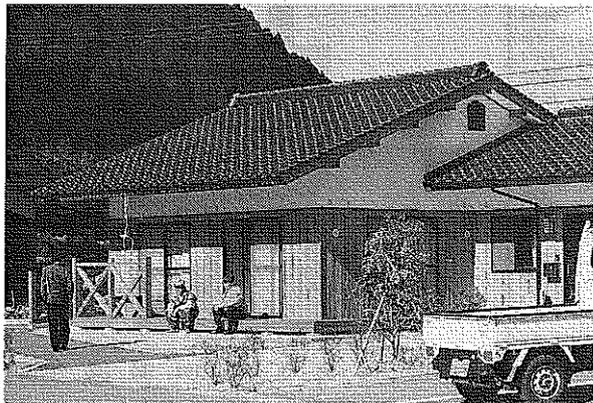
第二の人生は見知らぬ土地で

～矢部村シルバーハウジング

「高齢者は都心の便利のよいところ、住み慣れたところで暮らすのが良い」ということをよく聞きますし、そのようなことが一般常識だと思いこんでいた自分が恥ずかしいと考え直させられた例を紹介します。

福岡市から車で約2時間、福岡県の南端にある矢部村は、隣に熊本県、大分県がある山の中にあります。この村で、県営の高齢者対応のシルバーハウジング10戸が建設され供給されたのが、一昨年5月です。それから約2年が経過し、10戸のシルバー向け住戸には、単

気持ちの良い、広い緑側のある住戸



身6世帯、夫婦4世帯が入居し、実に快適で、悠々自適な生活が行われています。

県営住宅(村営ではないことがミソなのですが)であることから、入居者は福岡県内から集まっています。矢部村の近隣市町村からは、隣接する黒木町からの2人のみで、矢部村からの入居者はなく、福岡市や福岡市の近隣市町、久留米市、大牟田市からなど、全世界帯が見知らぬ土地への転居となっています。

このように、県内から人が集まる理由は、矢部村の魅力と、矢部村のシルバーハウジング「ゆいのもり」の魅力にあると思われます。

●矢部村の魅力とは

ここで暮らす高齢者の生活を聞いてみると、

- ・近くに畑を借りて野菜を作っている
- ・川に魚釣りに行く
- ・すぐ近くのデイケアセンターに行く
- ・デイケアセンターで知り合った友達と遊ぶ
- ・LSA(ライフサポートアドバイザー)の方が開く「…教室」に出る
- ・高齢者大学の講義に出席する
- ・「ゆいのもり」の友達と遊ぶ

など、田舎でしかできない遊びをし、新しいネットワークを増やしています。

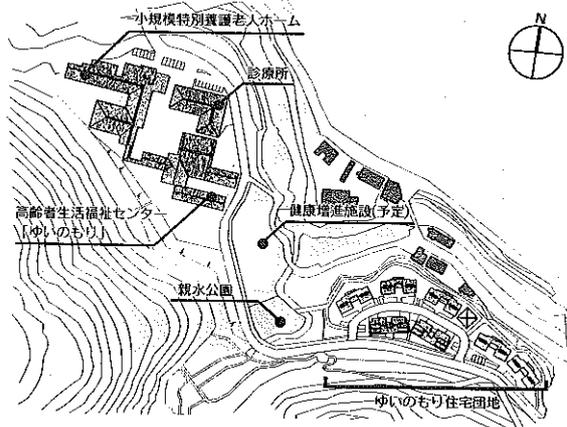
山や川があり、野菜を作る、魚を釣る気にさせる基盤があることが矢部村の魅力だと思います。

●「ゆいのもり」の魅力とは

「ゆいのもり」というのは、平成7年策定の矢部村住宅マスタープランのなかの「結の心を活かしたすまいづくりまちづくり」という“結”からきています。色々な施設が結われていることが、ここの特徴です。

シルバーハウジングと同じ敷地内には、2階建ての村

福祉施設が充実している「ゆいのもり」



ここで紹介する「熊本フードパル」は今から3~4年前に、月刊誌「地域開発」で、計画が紹介されていた記事を読んで以来、気になっていたものであった。昨年の11月にオープンしたと聞き、さっそく見に出かけた。

場所は、熊本市中心部から北西部約5kmのところ、JR鹿児島本線「にしごと駅」(熊本駅より博多方面へ3番目の駅)の近くにあり、道沿いのサインの通り走っていくと、小高い丘の上に少し目立つ建物が見えてくる。

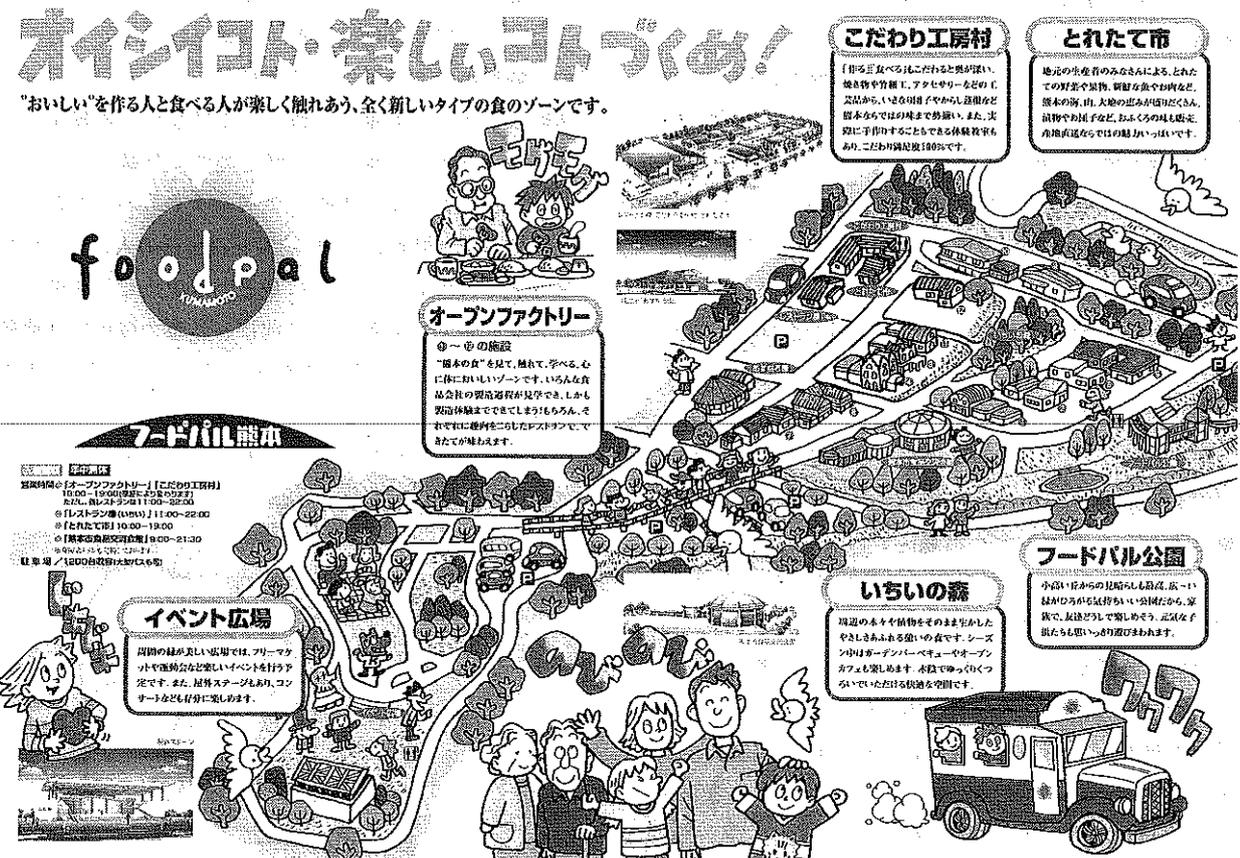
●工業振興策提言から18年目の歳月を要する

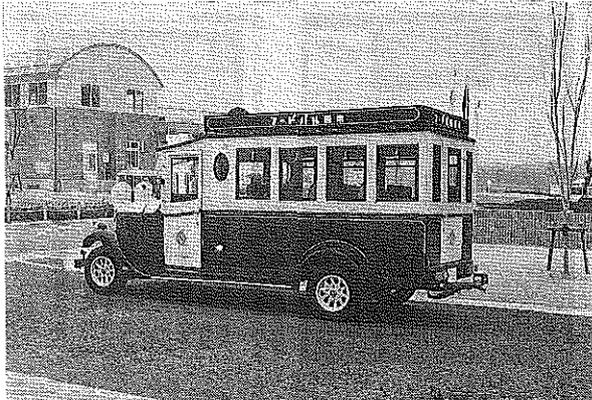
協同組合「フードパル」が発行している本「フードパル・熊本ただいま開店」を読むと、構想から建設までのいきさつや開発コンセプトが掲載されている。詳しくは、この本を手に入れて読んでもらえばよいので、ここでは簡潔に事のいきさつを紹介する。

- ・昭和55年：「熊本市工業振興懇談会」から答申が出る。
この中で本市の経済振興策のひとつとして「食品工業団地の建設」が提言される。
- ・昭和56年：熊本市工業適地調査
- ・昭和63年：中小工業団地調査

熊本フードパルの案内図 (規模：約28ha)

- ・平成2年：食品工業団地基本構想
 - ・平成3年：旧飽託郡北部町の熊本市への合併を機に町から用地の申し出がある。
熊本市食品工業団地計画促進調査
 - ・平成4年：食品工業団地基本計画
団地説明会
進出意向調査
建設推進協議会発足等、この年度に準備組織と基本コンセプトの確認が行われている。
 - ・平成5年：環境調査
 - ・平成6年：環境景観協定締結
 - ・平成7年：造成設計基本設計・実施設計
 - ・平成8年：建築協定締結
各組合建築物着工
 - ・平成9年：ネーミング募集、11月オープン
- なお、当事業は、計画・事業主体が熊本市と協同組合、開発主体が環境事業団(旧公害防止事業団)となっているが、計画は市の商工課がリードして行っているようだ。





工業団地内を巡回するバス

っているが、計画は市の商工課がリードして行っているようだ。

事業手法は「環境事業団」の集団設置建物建設事業という制度を活用している。これは土地の購入、造成、建築工事全てを環境事業団が肩代わりして行い、加盟組合企業が完成後に20年割賦（据置2年、固定金利4.05%）で購入するという仕組みのものである。

●3ヶ月で約20万人の入り込み客

私が訪れた日曜日の正午頃には、既に駐車場は半分近く埋まっており、そのほとんどが熊本ナンバーであった。中には久留米ナンバーも見られたが、この施設が熊本市民の格好の遊び場になっているようだ。

当日、加盟企業の事務室に行き、予約無しで「少し建設のいきさつなどを聞かせて下さい」と申し込むと親切にもお相手していただいた。お話の内容と私の見た感想を以下にまとめてみる。

- ・お客さんは11月～1月までの3ヶ月間で約20万人程度入っている。
- ・お客さんは親子連れ、アベック、若い女性グループ、熟年の夫婦づれなど多様である。
- ・20社が組合に参加。このうち12社が県内企業である。
- ・計画の途中で、協同組合の負担が多すぎるなどの理由で撤退した企業もある。（当初入居希望は33社）
- ・広場や道路などの共用部分の管理、営業、イベント企画などは、組合で出資した会社㈱フードパルで運営している。
- ・工場見学は月曜日から土曜日までとなっており、日曜日は買い物と食事が主流となる。企業の中には「蒲鉾手づくり体験」、また一角に設けられている「こだわり工房村」の中には「陶芸」、「竹細工」など簡単な



オランダ村風の工場と併設したレストランや体験施設

体験コーナーもあったが、どちらかという少し物足りない感じがする。

- ・中心施設である「食品交流会館」は市の事業で行った施設であり、多目的ホール、㈱フードパル事務室、研修室などが設けられている。

●リピート客は来るだろうか

街中がない、ゆったりとした空間の中で「お金使わず、時間を使う施設」としては、これからもお客が来るのではないと思う。それは、熊本市内から車で15分程度で行けるという、アクセスの良さにあるのが第一条件のように感じる。また、元熊本在住の人から「熊本の繁華街は下通りと上通りだけを歩くと終わってしまい。時間がつぶれない」といったことを聞いたことがあるが、熊本市近郊で街中に欠けていたものを補填する役割もあるようだ。

ただ、お客が多い日曜日に予約無しで手軽にできる「体験コーナー」が少なく、見方によっては郊外のレストランを集めたパワーセンターみたいな感じもしないではない。体験できなかった分、少し物足りなさを感じた一日だった。

（山田 龍雄）

都心の循環バスはお年寄りの足に

～北九州市都心循環バスの試験運行

先日、北九州市に行ったときに「迷わず乗れる都心循環バスを試験的に実施」と書かれた案内パンフレットをもらった。都市計画課の方に話を聞くと、都心交通改善事業のパークアンドライドの推進が目的という。

バスには二人の調査員が同乗し、アンケート調査を実施するほか、バスを利用しない市民からも広く意見を聞いたり、都心部での駐車場利用状況、デパートなどの買い物客の動向などを調べ、1999年の1月の本格実施に向け基礎データを収集するというのだ。

運行の概要は次のようになっていた。

試験期間：平成10年1月18日～25日（8日間）

ルート：JR小倉駅を起終点とする延べ約4.6km

停留場所：中心市街地の概ね1～2km圏内の主要施設

小倉駅～区役所～駅～放送会館～公園～

住都公団団地～医療センター～中心商店

街～小倉駅のルート

乗車時間：約35数分で1周

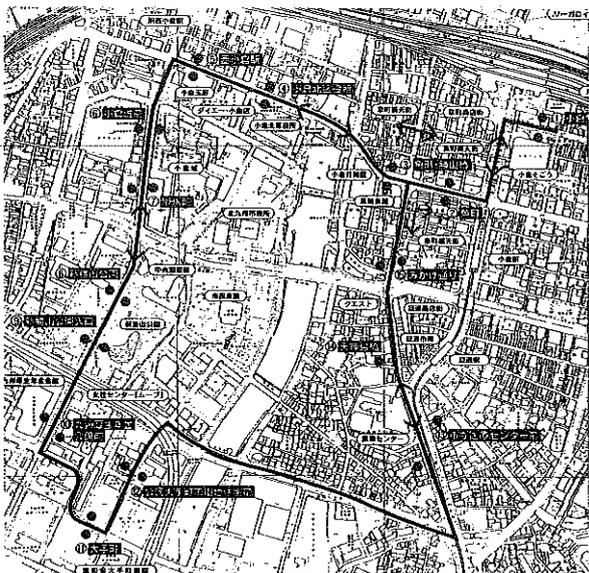
運行間隔：15分 72本/日

料金：一律170円（大人）90円（小人）

後日、テレビのローカルニュースでこの試験運行のことを放送していたので、この期間中にこのバスに乗ってみることにした。

私は、中心商店街にある停留所から乗ることにした

都心循環バス試行実験ルート



朝日新聞 (H9. 12. 11)

が、普段はバスが止まらないお店の前に、臨時の停留所が置かれていた。臨時停留所はバス停にある屋根付きの待合いではないため、歩道で立って待つことになる。雨が降っていたので、待つ間に本屋で立ち読みしようか、コーヒーでも飲もうかと考えてみる。

やがてバスが来たので乗ろうとすると、ご年輩の方が、近くのお茶屋さん、お菓子屋さんからぞろぞろと出てきて、一緒にバタバタとバスに乗り込んだ。

渋滞の解消など、交通をいかにうまく流すかという発想の事業なのだが、それよりも商店街の店先に頻繁にバスが止まると、乗る直前まで時間がつぶせて便利なのである。本数も多いし、全部循環バスだから、遅れたり乗り間違えたりという心配はない。

バスに乗ってみると、我々より先に乗っていた乗客は4～5名と少ない。モニター調査員の女の子が乗っていたので話を聞いてみると、高齢者の利用が多いという。このバスのことを知っている人は、この期間中に何度も乗っているようだ。

私が乗った1循環の中では、駅から最も遠い位置にある停留所の人の乗降も多かったが、最も人の乗降が多いのは、小倉駅とその手間の中心商店街の近辺であった。街なかの人の動きをサポートする役割として、土地に馴染みのない人でも乗れる、分かりやすいバスに対するニーズは意外に多いのかもしれない。

以前、東京都武蔵野市の住宅団地内で、高齢者をあちこちに連れていってくれるノロノロバスが運行され

て評判になっていたが、人の動きやスピードに対してどんなサポートができるのか、というマーケティングについて何か考えてみたい。(尾崎 正利)

所員近況

■グローバルな企業活動と国際空港

対日投資の促進のために外資系企業の調査をした時のことです。関西に立地するスウェーデン本社の企業で、世界90カ国に200の子会社があり、世界の従業員は約3万人規模の企業でした。その製品はニッチと言われる分野のもので、工作機械の部品の中でも金属を切削するための超硬具で、世界の40%のシェアを持つメーカーです。

この製品は付加価値で勝負をするものであり、日本の製造業、とくに自動車産業などで製品を使ってもらうためには、相当レベルの高い技術が要求され、その実績が世界の製造業界でも大きな信頼が得られるということでした。これは、今日本に立地する外資系の製品を販売する企業には共通のことで、日本の消費者、企業が納得、認知したものは、世界に通じると言われていることを実感しました。

話が逸れましたが、この企業の顧客サービスのシステムで、世界的にも自慢できると言われたのが、製品の品質に並んで、そのメンテナンスシステムのようなものです。当然、世界中に顧客は分散しており、全ての国々で全ての注文製品を生産することは、コスト的にも無駄が多いため、特殊な製品、付加価値のより高い製品は、オランダのセントラルストックに常時準備してあります。世界のどの国の顧客からでも、オーダーがその国の事業所に入った時点で、国内にストックが無ければ、自動的にセントラルストックにオーダーが届き、そこから直接、顧客のもとに航空便で配送されるというシステムです。このシステムのおかげで、おそくとも一週間以内には、注文品が届くようになっているとのことでした。これを可能にしているのは、オランダの空港機能であり、それを支えている倉庫業、運送業などの産業です。国際空港機能は、24時間稼働というだけでなく、企業のグローバルな活動を支える周辺の空港関連産業の基盤があって初めて成立するものだと納得した次第です。(山辺 真一)

■男のくせに、ツラでメシを食うなんて…という

言葉からの連想

前号に書いた「ロボットの性能低下」と「若返り法」について、何人かの人から会ったときに言われたり、ハガキをいただいたりした。とりとめのないことを読んでくださる方もいると思い、少し申し訳ないような気がした。

と言いながら、またとりとめのないことを書くことにする。

文藝春秋の3月号に「三船さんの含羞」(野上照代)というエッセイが載っている。

三船敏郎が、東宝の撮影助手になれないかということを出した履歴書が、ニューフェイス係の方へ回ってしまって養成所に採用されてしまう。その三船に監督である谷口千吉が出演交渉に来たら、自分はいずれ撮影部へ移るつもりだと言い、『男のくせに、ツラでメシを食うなんて好きじゃないです』と断った。このエッセイには「男のくせに役者なんて、と言う三船さんの含羞は、最後まで彼につきまわっていたような気がする」と続いている。

これを読みながら20代の頃の自分を思いだした。私の最初の就職は散々で、やっと知人の紹介で小さな編集屋(市場調査もやっていたが)にもぐり込んだ。編集と言ってもPRもののアルバイト(会社としての)もあるので、取材のための出張、原稿書き、レイアウト、印刷会社との打ち合わせなどの合間に、商品のPRのねらいはもちろんモデルを決めて頼んだり、カメラマンを決めたり、写真のねらいやカメラアングルまで考えたりしていた。

「こんなことを一生やるのか、男のくせに」という気分が起るともういけない。3年半ぐらいでやめた。あのまま含羞をもちながら働き続けたら、もっと一人前の仕事屋になれたかもしれない。いかんせん根性がなかったのである。そのあと少しは男っぽいかと思って土建屋にいったが、これも3年余でやめた。そして、この計画屋の商売に移って、もう29年になる。

ところが、よくよく考えてみると、編集屋は多くの人々の原稿をまとめて本にする仕事であったし、土建屋は多くの職人の働きにたよってそれをまとめる仕事であったし、今の仕事も多くの人に教えてもらいながら、計画にまとめる仕事である。やっと今頃、少々含羞を感じている次第である。(糸乗 貞喜)

第6回よかネットパーティのお知らせ

毎年恒例の“よかネットパーティ”の時期になりました。6回目を迎える今年は、原点である「人と人との交流の輪づくり」を深めるため、これまでとは趣きを変えて、開催する予定です。

日時：平成10年5月23日（土）

14：00～17：00

場所等の詳細については、後日改めて案内を送付いたします。



「免疫学個人授業」

先生 多田富雄
生徒 南 伸坊
新潮社 刊

免疫学というと何だか難しくてじんましんができそうですが、「免疫学個人授業」は生徒である南伸坊さんの好奇心に、多田富雄先生が答えるように授業が進み、ユーモアたっぷりの伸坊さんの言葉に笑いながら基礎から最先端までの知識が得られる本です。

「免疫学個人授業」は、ちょうど私が風邪をひいている時に読んだ本で、風邪については、実体験を交えながら本の内容を理解しました。今冬の風邪は、鼻水、咳、くしゃみが長い間続き、体がつらかったのですが、これらの症状はただ単に体を弱らせているだけでなく、風邪のウイルスを体から追い出すために働いていたようです。風邪のウイルスが体に入ってくると、体が自己でないものに反応し、それを追い出そうする症状がでてくるそうです。

また、よく耳にすることですが、風邪薬はウイルス感染そのものを治しているわけではなく、咳、くしゃみ、鼻水等を抑えるだけなのだそうです。そうすると風邪薬を飲むことは風邪を治そうとする働きを止めていることになるかもしれません。私の風邪は長引き、後半はほとんど薬を飲みませんでした。風邪はいつの間にか治りました。結局、薬でも、医者でもなく自分自身の免疫で風邪を治しました。

この本では他に、アレルギーやエイズの話から免疫のしくみまで詳しく説明されています。免疫は自己と他を区別して自己を守る原理ですが、この本を読んでいるうちに、体の中のことだけに思えず、私とは何か？

自分と人は何が違うのか？ということまで考えさせられました。 (七瀬 かおり)

編集後記

■ 昨年の同月号のこの覧で、コンピューターがダウンした役所の話を書いたことを思い出しました。実は、昨年の秋に当事務所で全く同じ経験をしてしまいました。

■ 停電が時たまあった時に、サーバーの立ち上がりがなかなかうまく行かないことがあり、換え時かなと思っていた頃でした。突然それは襲ってきたのです。前触れもなく。土曜日の朝、ビルが電気工事で停電するという張り紙を見損ねたばかりに、多大な臨時出費です。

■ 一度、これを経験すると、常日頃からデータのことが気になり、手動でほとんど毎日バックアップを取っています。自動で保守するソフトもあるようなのですが、結構な値段なもので手動でやっています。いずれ安いソフトが出るの期待して。

■ 今年もパーティの企画を考える時期になりました。6回も続くとネタ切れかなと思うこの頃です。

(べ)

よかネット NO.32 1998. 3

(編集・発行)

㈱九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ5F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-942-5732

名古屋事務所 TEL 052-265-2401

東京事務所 TEL 03-3226-9130